

# 名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2024年 7月 25日

学部・学科名 外国語学部 英米語学科

担当教員氏名 吉本 美佳

|             |  |
|-------------|--|
| 1. 区分       | 中期留学 ・ 語学研修 ・ 海外実習   |
| 2. プログラム名称  | 2024年度英米語学科中期留学  |
| 3. 渡航先国名    | アイルランド   |
| 4. 派遣期間     | 2024年 4月 6日(土) ~<br>2024年 7月 1日(月) 87日間  |
| 5. 派遣先教育機関名 | ダブリンシティ大学  |
| 6. 参加学生数    | 9名   |
| 7. 派遣目的     | 英語を母語とするアイルランドで、集中的に英語を学びコミュニケーション能力の向上を図るとともに、インターンシップとホームステイを通じ、現地の風土・文化に触れ、異文化理解を深める。また、卒業後の進路選択に繋がる職業上の経験を得ることを目的とする。  |
| 8. 派遣内容     | 派遣先大学で語学学習を受講し語学力を高めながら、語学学習だけでなく、そこで学んだ知識を活かしつつ、実際に海外で働くインターンシップを行う。具体的には、ホームステイをしながら12週間の英語コースを午前中に大学で受講しながら、5週目以降、各学生が配属された職場で平日の午後と週末7週間のインターンシップを行う。                            |
| 9. 成果       | 2024年度中期留学を通し、自発的に行動するようになったように見受けられる。実際に帰国後の学生からのレポートでは、留学生生活を有意義に過ごすため、自ら考え行動し、自分の意見を伝えられるようになったという意見があった。また、ホームステイを通じて、多文化理解を深めることができた学生が多く見受けられた。<br>インターンシップは、多様性に対する理解を深めるきっかけ |

|        |   |
|--------|---|
|        | けとなった。また、実際に興味がある業界が自分に向いているかどうか、インターンシップを通じて理解することができたという意見もあった。 |
| 10. 備考 |   |

以上

## 中期留学レポート

私はこの中期留学を通し、英語学習及び人生において様々なことを体験し学ぶことが出来ました。

私は元々アメリカ英語に興味があったので、留学するならアメリカ圏で半年以内が良いと思っていました。しかし今回の中期留学先はアイルランドでした。アイルランド英語にはあまり関心が無かったのでアイルランドに留学するか迷いましたが、以前オーストラリアに春期海外研修で行ったことがあり、アメリカ英語にこだわる必要はないと感じました。加えて就活にあまり支障のない期間での留学は今回が最後だったので、このチャンスを逃すわけにはいかないと同時に、TESSの条件を満たしていたこともあり、この機会を利用したいと思いました。

アイルランドでの生活を通し、気候や建物、食からアイルランド英語まで日本ももちろんですが、オーストラリアとの違いも感じとても驚いたことを覚えています。一番の違いは自然の多さです。緑が多く、景色が鮮やかに感じられたことと、至る所に芝生の公園があり、時間の流れも穏やかでゆっくりとしていた印象です。ダブリンシティセンターも決して大きいわけでは無く徒歩で大抵のところは行けたので、とても便利でした。

DCUでの授業はとても興味深く、新しいことも学びました。私は最初 **Intermediate/B1** というクラスにいましたが、先生からの推薦でテストを受け、もう一つ上の **Upper-intermediate/B2** のクラスに移動しました。レベルが一つ上がると、授業のレベルも格段に上がり、最初はついて行くのに本当に必死でした。まだ耳が慣れず、先生の説明が大まかにしか分からない程度でした。生徒も多国籍になったので、それぞれの国のアクセントや速さ、語彙の違いにより会話することも難しかったです。自分のスピーキング力とリスニング力の低さに自信を失い、本当にこのクラスでやっていけるのか不安になりました。しかし2、3週間経つと、授業形態や耳も慣れてきて、最終的には先生の言っていることがほとんど分かるようになっていました。自分の成長を直に感じられてとても嬉しかったです。B2での授業はスピーキングの割合が一番多く、私が一番伸ばしたい技能がスピーキングだったので、満足する授業でした。その上既に学習したことのある文法をネイティブの先生から論理に基づいて細かいところまで教えて貰ったので、今までと比べより理解度が増し、場面に応じて使い分けられるようになりました。DCUを通して一番力が付いたのはスピーキング・リスニング力、文法の3つの技能だと思われま

私のホストファミリーは本当に温かい人達で、ルームメイトとして韓国人、スペイン人の二人とも交流しました。アイルランド・韓国・スペインとそれぞれの文化に触れられ、とても良い経験となりました。ホストファミリーはこれまで何十人もの留学生を受け入れてきた家族であり、特にホストファザーは私の耳が慣れていない最初のうちはゆっくりと話してくれて、とても助かりました。明るく陽気な人で、私を心から歓迎してくれていることが伝わってきて、出会えて良かったと心から思っています。

今までアメリカよりだった私の英語は、語彙がアイルランド英語になり、以前よりも発音や文化に興味を持つようになりました。また、ネイティブの先生による多国籍生徒に囲まれながらのオールイングリッシュの授業は、“English Learner”ではなく“English User”として私にとっても大きな学びを与えてくれました。今回、この中期留学に参加して大変良かったと総合して思います。

今回から中期留学の実施先がアイルランドに変更になり、不安もある中での留学スタートでしたが、フレンドリーな国民性と環境に励まされながら無事に帰国することが出来ました。3ヶ月という短い期間ではありましたが、限られた期間であることを意識し、より積極的に行動しようと心がげたり、週末に出かけたりとアクティブに過ごすことが出来ました。

語学学習については、事前に受けたプレイスメントテストにて分けられたクラスで授業が行われました。私のクラスは韓国や中国などのアジア諸国の留学生のみならず、ロシアやキルギス、後半にはメキシコ、フランス、イタリア、クウェートなど、沢山の国からの人々と関わることができた環境でした。全員が”英語で英語を学習”する空間で新鮮でした。それぞれの母語のアクセントで英語のはずが上手く聞き取れないことも多々ありましたが、言い換えたりジェスチャーを使いながら、助け合って学習をさせてもらえた環境だったと感じます。担任の先生は、会話の中で出てきた新しい単語や普段使いのしやすいイディオムなどを週末の語彙テストとして出題してくださいました。そのため、記憶にも残りやすく、活用もしやすい内容の授業が多かったと思います。会話やディスカッションなど、”話す・英語を使う”機会が日本よりも多かったと感じました。

インターンシップに関しては、私の配属先が事務仕事をする場所だったこともあり、ただひたすら黙々と作業をこなしていくといった仕事が多かったです。接客の仕事イメージしていたので少し残念な部分もありました。しかし、配属先の方が休憩時間にお話をしてくださったり、仕事の理解度や進捗状況を気にかけてくださるなど、優しいスタッフの方に恵まれたことには感謝しています。ほかの配属先の **NUFS** 生も英語を使う機会が少ないインターンシップだったと言っていました。また、こちらは個人的な意見にはなりますが、仕事量・勤務時間に大きく差が出ていた日もあったので、均等になるように配慮して頂けると嬉しかったと感じました。インターンシップ先の繁忙期等、渡航時期の関係もあるかとは思いますが、来年度からはそのような点も考慮して頂ければと思います。

ホームステイ先での生活も特に大きな問題などはありませんでした。ダブリン市内はどのエリアへも基本的にバスで移動が可能だったので、移動もしやすく、様々な場所に出かけることが出来ました。（公共交通機関で使用できるリープカードが到着日に配布され、すぐに使用開始出来たので本当にありがたかったです。）

3カ月間という短い期間の中で、急激に英語力が伸びた実感はないですし、おそらく伸びてはいないと思いますが、英語に対するモチベーションは大いに上がりました。日本とは別の環境、そして英語に囲まれた環境で過ごすことが出来たからこそ上げることが出来たモチベーションだと感じます。この期間のなかで現地のスタッフの方にも相談したこともありましたが、中期留学担当の先生方やスタッフの皆様の迅速な対応にも助けて頂きました。また、私は全額支援制度を利用しての参加だったため、このような機会を使用できたことにも感謝しています。総じて、アイルランドという国、**DCU** という大学はとても素敵な場所だったので、パワーアップした中期留学をアイルランドにてまた開催して頂きたいなと思いました。

## 中期留学レポート

私は中期留学を通して、語学学習だけでなく、文化や歴史も学ぶことができたと思います。アイルランドでの最初の一か月は、午前中に授業を受け、午後からはシティセンターに行ったり、植物園に行ったりして、街の探検をしました。

授業では、文法や単語の勉強をしました。ペアワークやグループワーク、アクティビティが多く、外国人のクラスメイトたちともたくさんコミュニケーションをとることができました。また、ゲームを通してクラスで盛り上がりながら学習することが楽しかったです。

二か月目からは、午後からインターンシップが始まりました。私は学校の近くのコンビニエンスストアで働きました。主な仕事内容は消費期限の確認や、店内の掃除、会計等でした。会計では、タバコや宝くじ、スマートフォンのトップアップやキャッシュバック等、覚えなければいけないことが多く、なかなかうまくできませんでした。しかし、一緒に働いている仲間が根気強く何度も教えてくれて、徐々に覚えることができました。また、お客さんは優しい方がほとんどで、現地の方々とお話を交えながらレジ係をすることが楽しかったです。

留学中は、アイルランドの様々な場所へ行きました。電車に乗ってビーチに行ったり、港町にフィッシュアンドチップスやシーフードシチューを食べに行ったりしました。私が特に楽しかったのは、モハーの断崖に行ったことです。モハーの断崖はダブリンから少し離れているので、バスツアーに参加しました。ツアーでは、バスガイドさんの解説を聞きながら移動します。アイルランドで起こったじゃがいも飢饉のお話や、バイキングのお話を聞きました。モハーの断崖はとても美しく、牛や羊がたくさんいて、のどかですてきな場所でした。

ホームステイでは、ホストファミリーと一緒に夕食を食べたり、アニメを見たりして過ごしました。私がお世話になったホストファミリーは本当に親切な方で、いつも私を優しくサポートしてくださいました。ホストシスターは、日本のアニメが大好きで、たくさんアニメのことを話してくれました。また、お母さんはいつも私の相談に乗ってくれたり、アイルランドの文化を教えてくれたりしました。お母さんのリクエストで日本食を作ることになり、親子丼とみそ汁を作りました。家族が喜んで食べてくれてとてもうれしかったです。

留学前は、初めての海外ということもあり、とても緊張していました。しかし、アイルランドの温かい家族や友人に恵まれて、三か月があっという間に過ぎました。この留学を通してたくさんの貴重な経験ができ、本当にアイルランドに留学してよかったです。以前は海外の方とお話する際にいつも緊張してしまって、うまく話せないことが多かったのですが、この三か月で会話に慣れて、楽しくコミュニケーションをとることができるようになりました。アイルランドの文化や歴史に触れて、大好きな国になったので、またいつか機会があれば、もう一度アイルランドを訪れたいと思います。